

佐用町の 次の20年に向けて

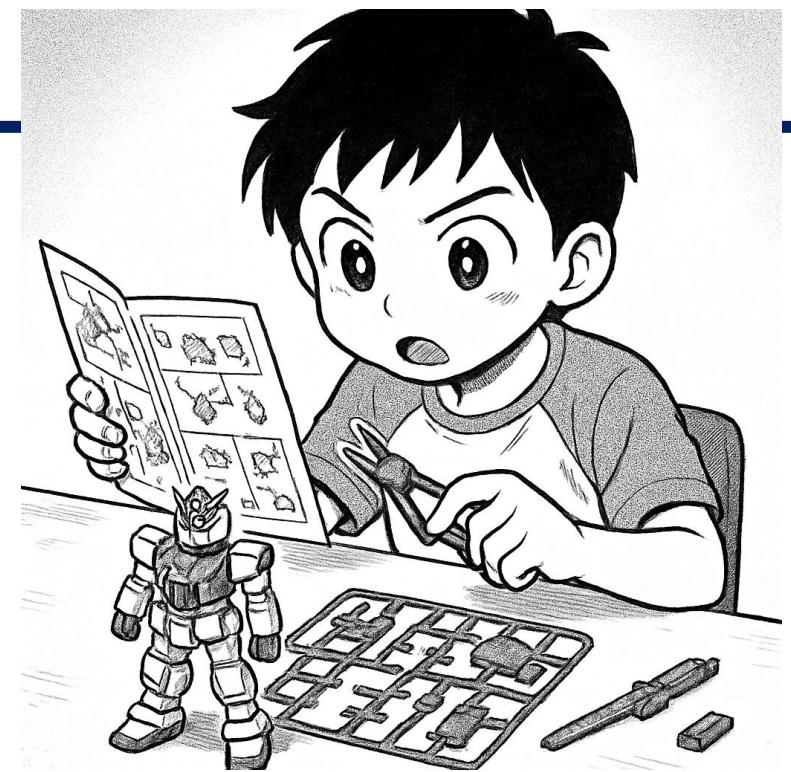
企画防災課まちづくり企画室

いきなりですが、

佐用町の総合計画

というものを知っていますか？

総合計画とは

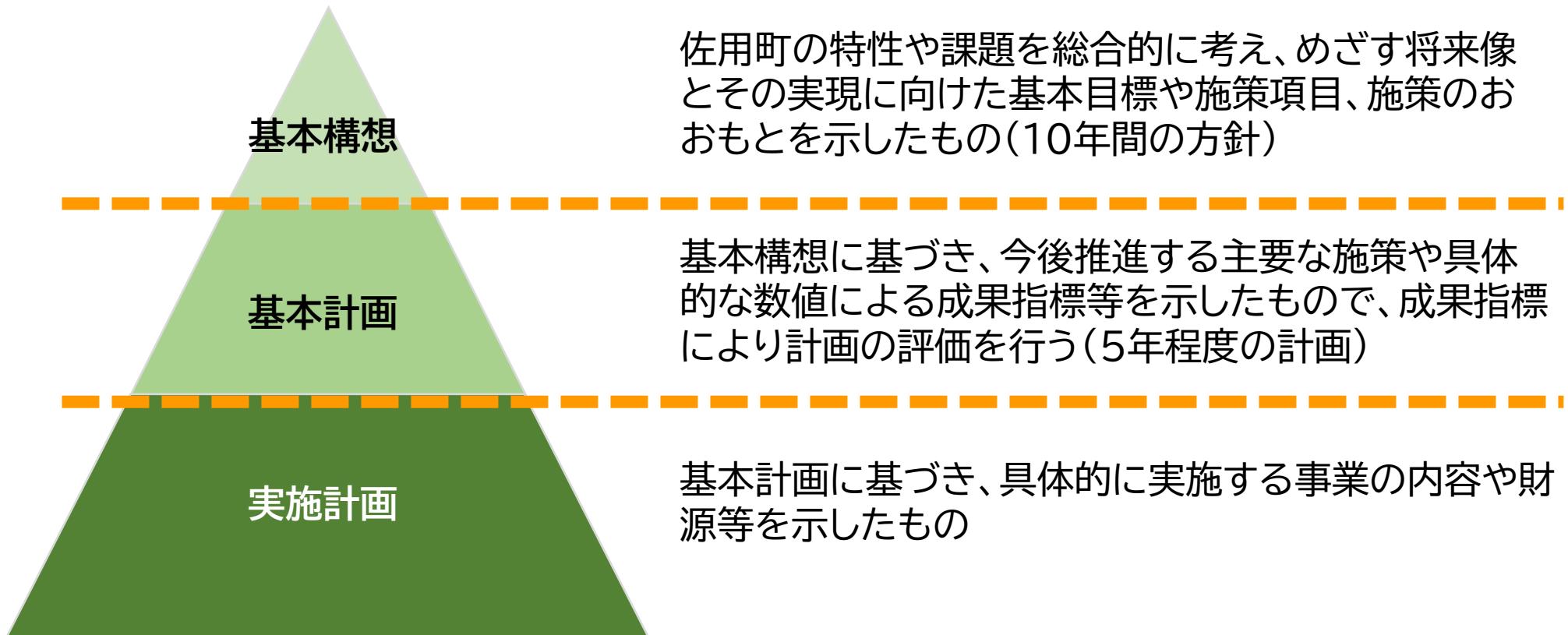


- そのまちをどのような方向性で運営していくかを示す
設計図のようなもの
- 地方自治体における行政運営の**最上位計画**
- 住民全体で共有する**自治体の将来自目標や施策**を記載
- 全ての住民や事業者、行政が行動するための**基本的な指針**

総合計画とは

- 総合計画
- 総合計画は地方自治体の全ての計画の基本
 - 地域づくりの最上位に位置づけられる計画

総合計画の構成 基本構想、基本計画、実施計画で構成



みんな（住民、役場）で作り上げていきます

○第1次総合計画（H19年度～H28年度）

○第2次総合計画（H29年度～R8年度）

○第3次総合計画（R9年度～R18年度）

👉 これから作っていきます

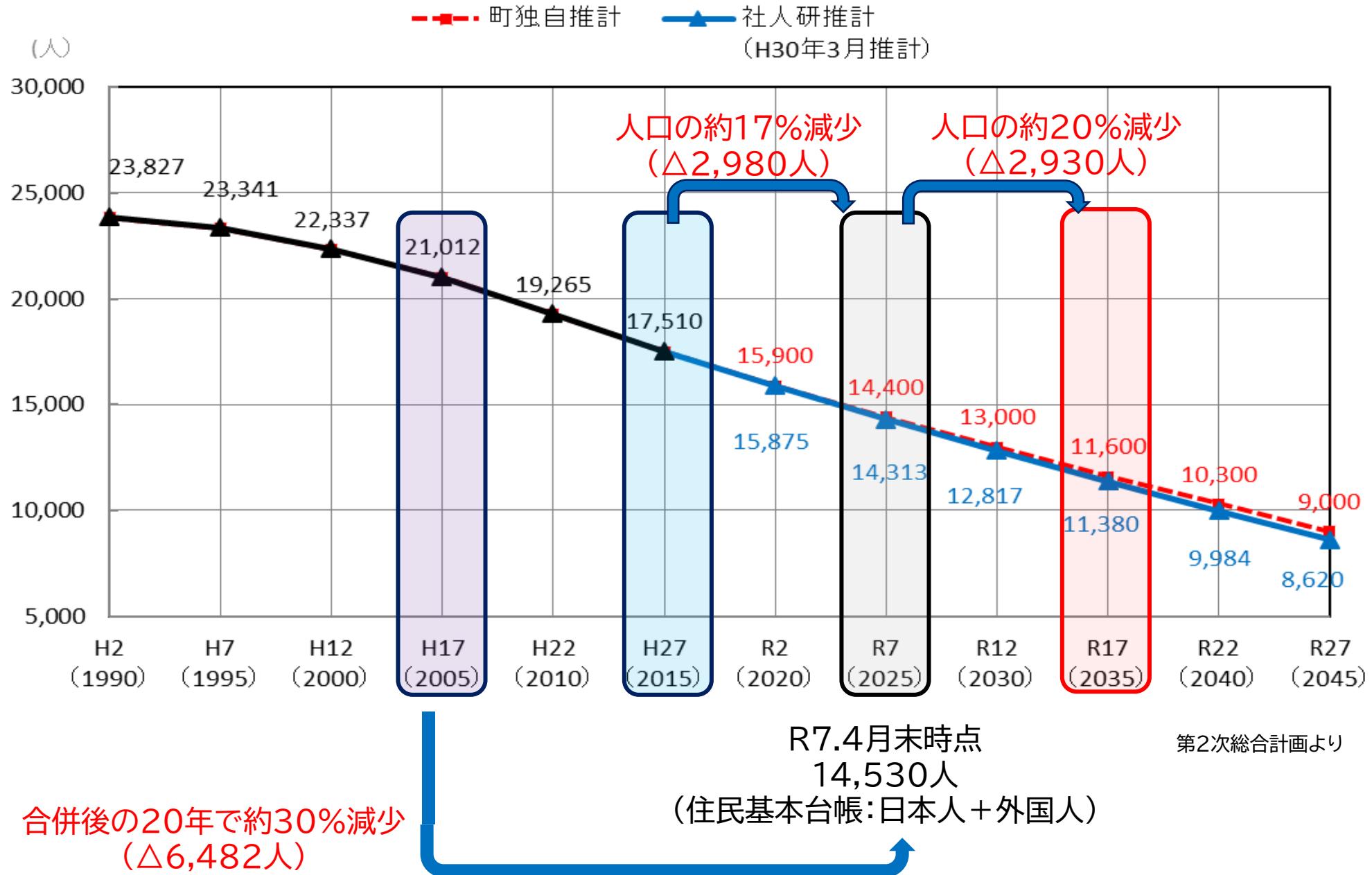
佐用町のさまざまな分野の現状、課題などの把握が必要

みなさんのお力が必要です

今回の話し合いの内容も反映していきます

佐用町の現状を共有

佐用町の人口

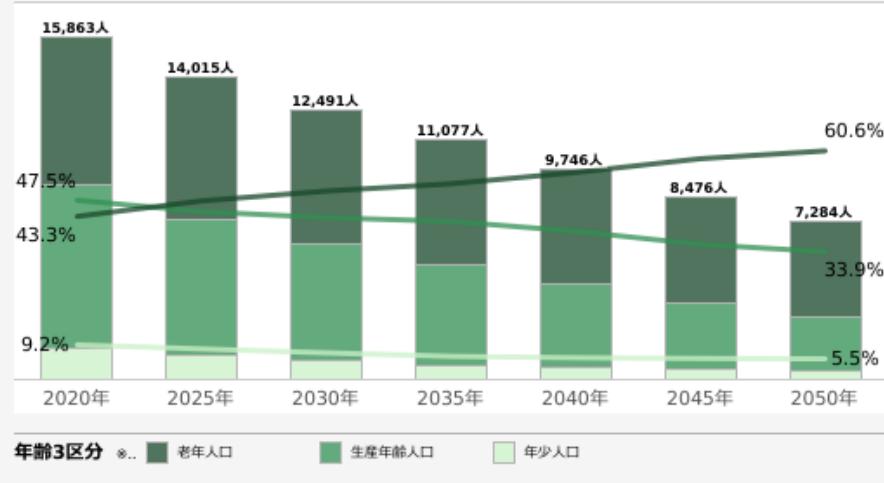


佐用町の人口

(国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）

2 人口推移

(2020年～2050年 兵庫県佐用町 年齢3区分人口及び割合)

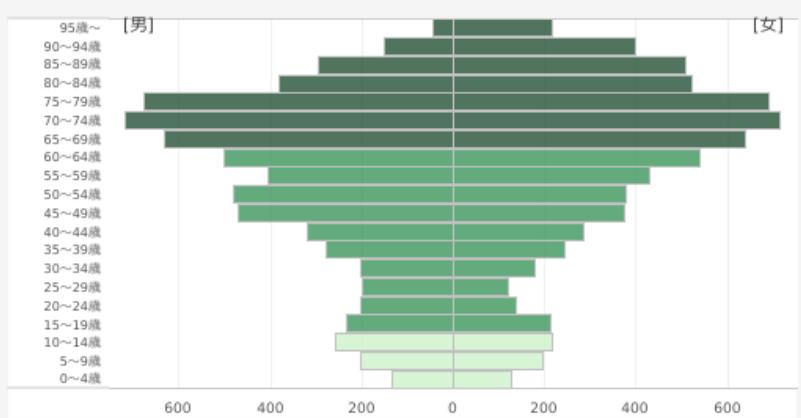


2050年：高齢化率60.6%（予想）

人口は引き続き減少予想
2050年の町民：7,284人

3 人口ピラミッド

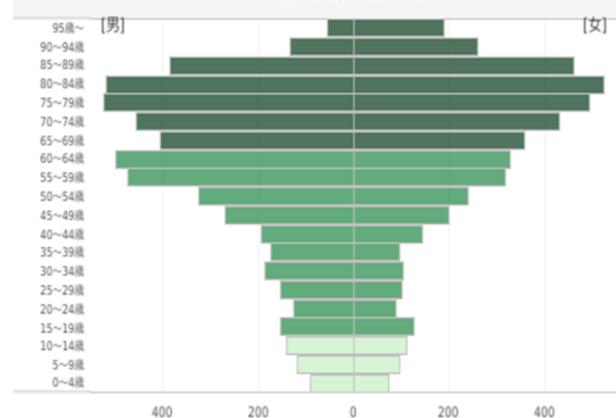
(2025年 兵庫県佐用町 男女5歳階級別人口)



高齢者人口割合がさらに増加

3 人口ピラミッド

(2035年 兵庫県佐用町 男女5歳階級別人口)

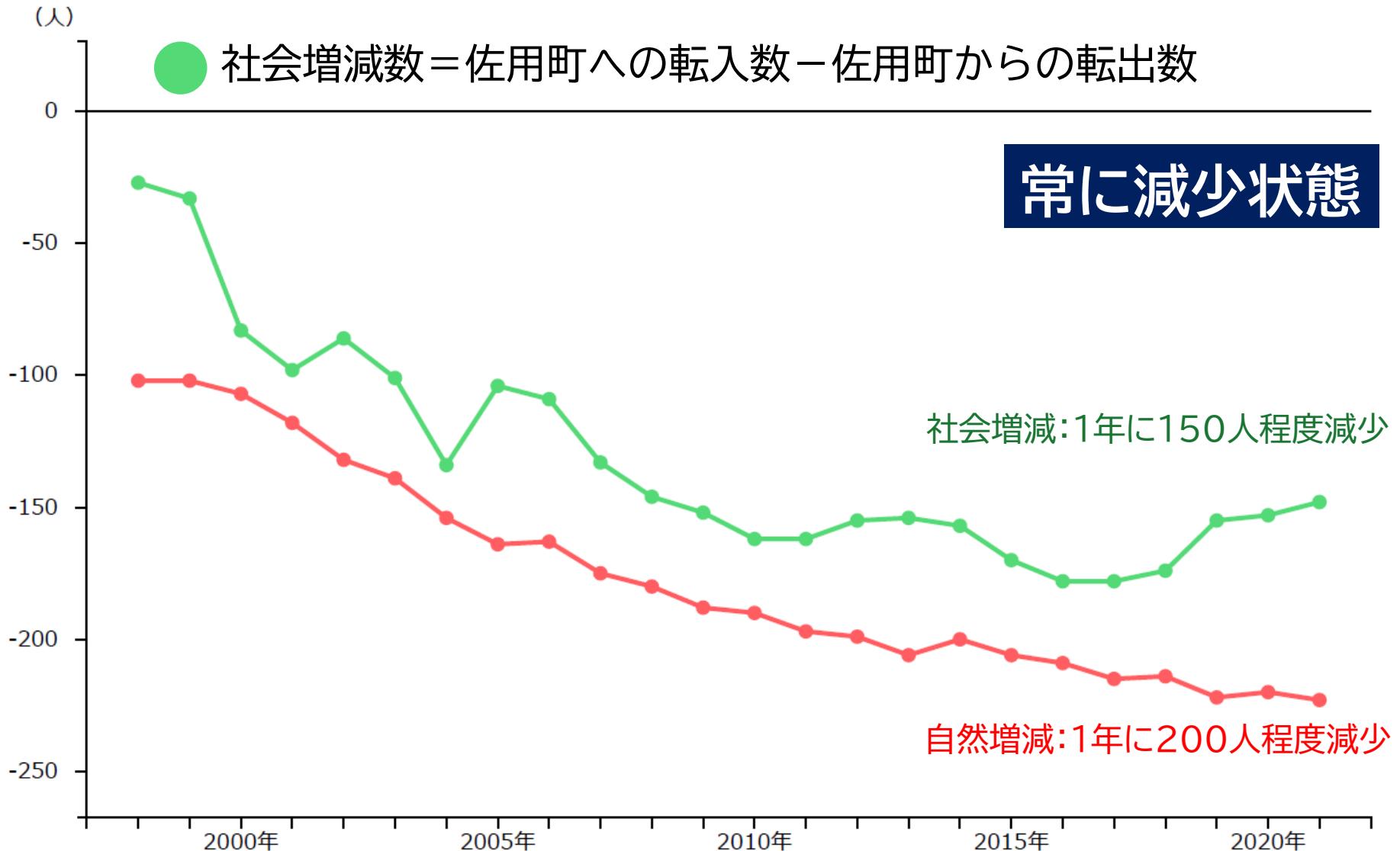


若者の人口割合がより減少

佐用町の人口（自然増減数、社会増減数）

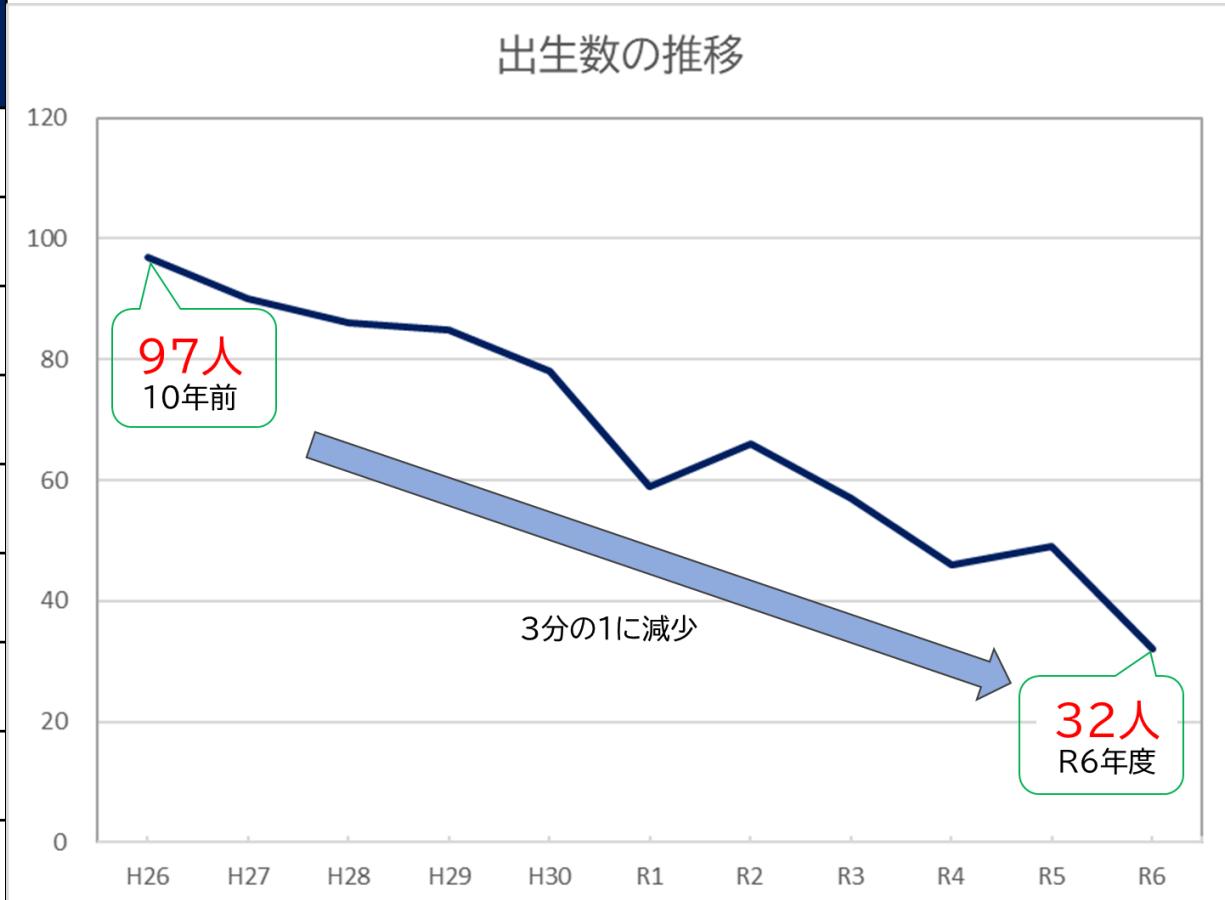
● 自然増減数 = 出生数 - 死亡数

● 社会増減数 = 佐用町への転入数 - 佐用町からの転出数

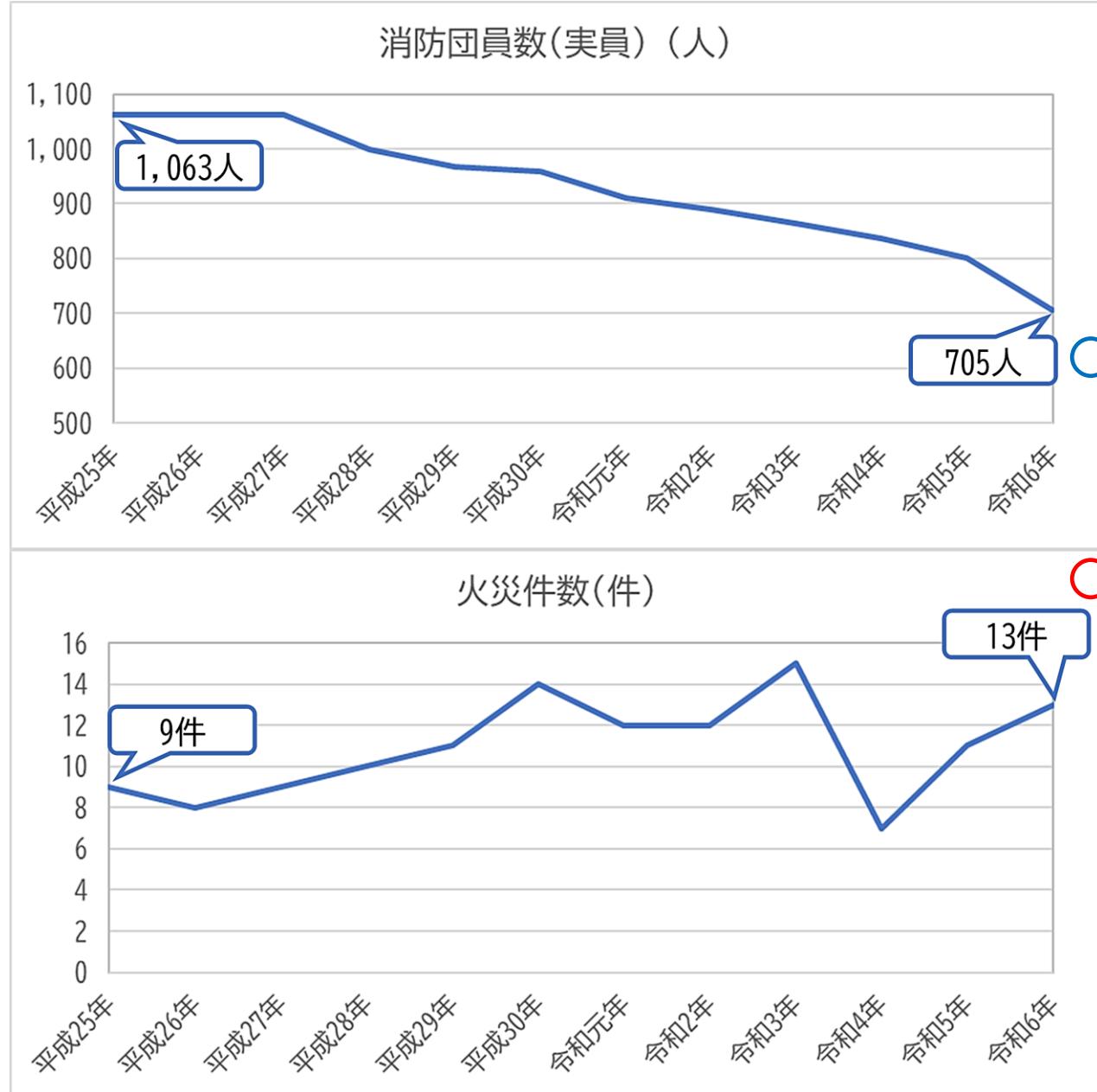


佐用町の人口（出生数）

年度	町内の出生数(人)
H26	97
H27	90
H28	86
H29	85
H30	78
H31	59
R2	66
R3	57
R4	46
R5	49
R6	32



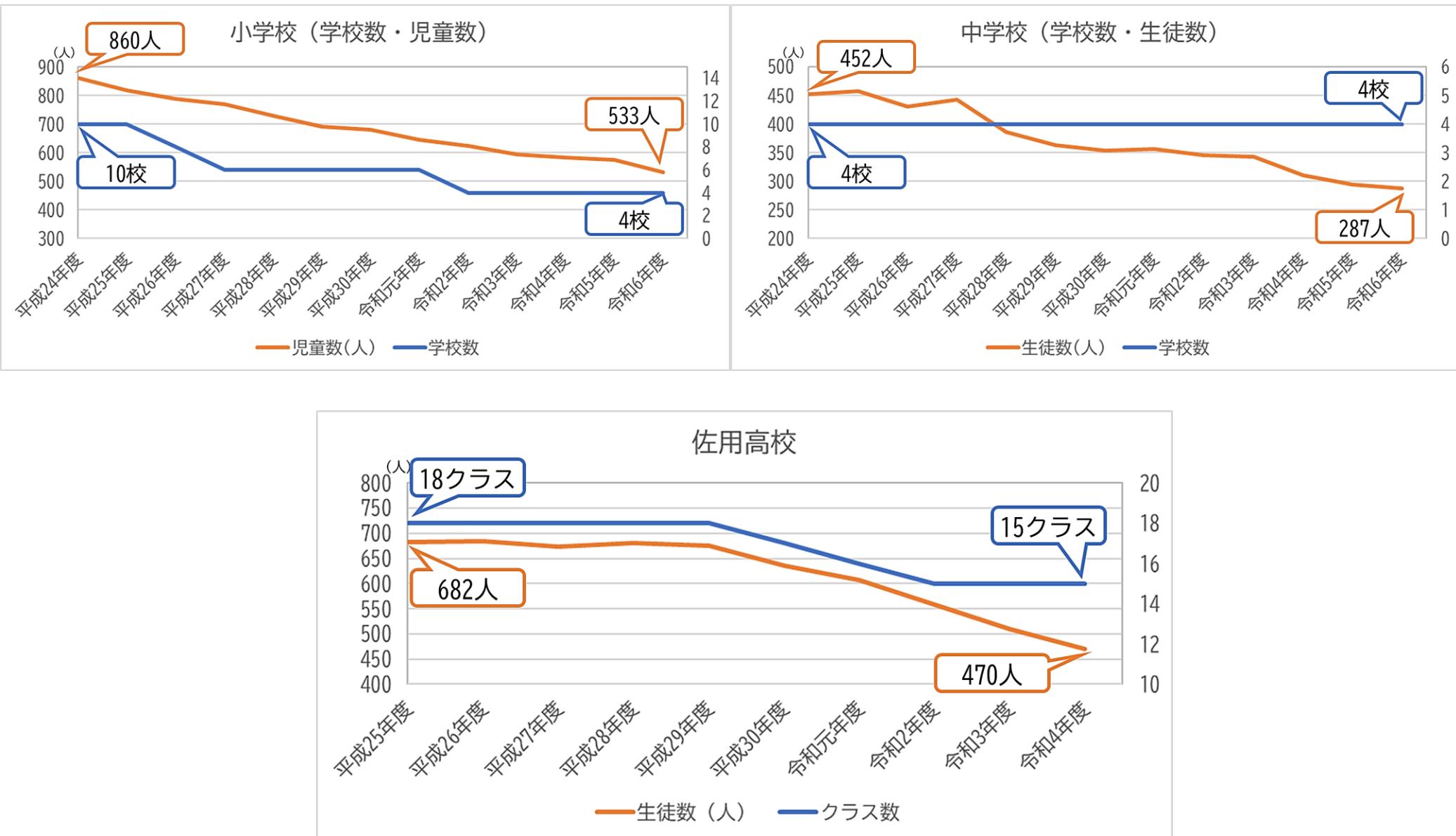
佐用町消防団員数



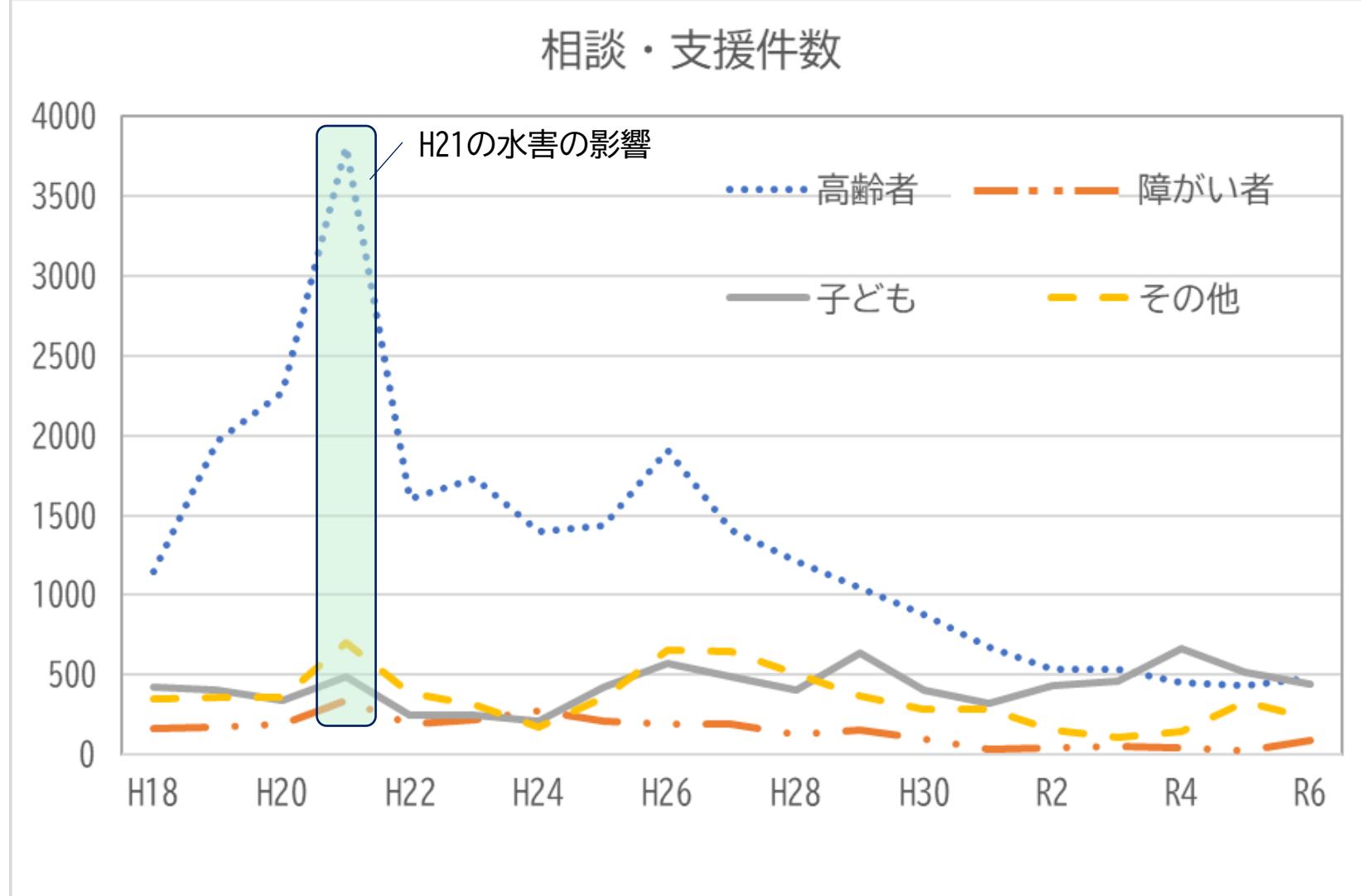
○消防団員数は
3割強減少

○火災件数は
10件前後／年で推移

佐用町内の学校



民生委員（児童委員）の相談・支援件数



○高齢者の相談・支援件数
○子どもの相談・支援件数

減少（相談が困難になっている？）
維持（子どもの人数減少⇒相談割合増加）

兵庫県の状況 と 各自治体の取り組み結果の現状

これまでの人口増加時代の取り組み

これまでの時代は、人口増加に対応するための取組みをすることで発生する課題を抑制

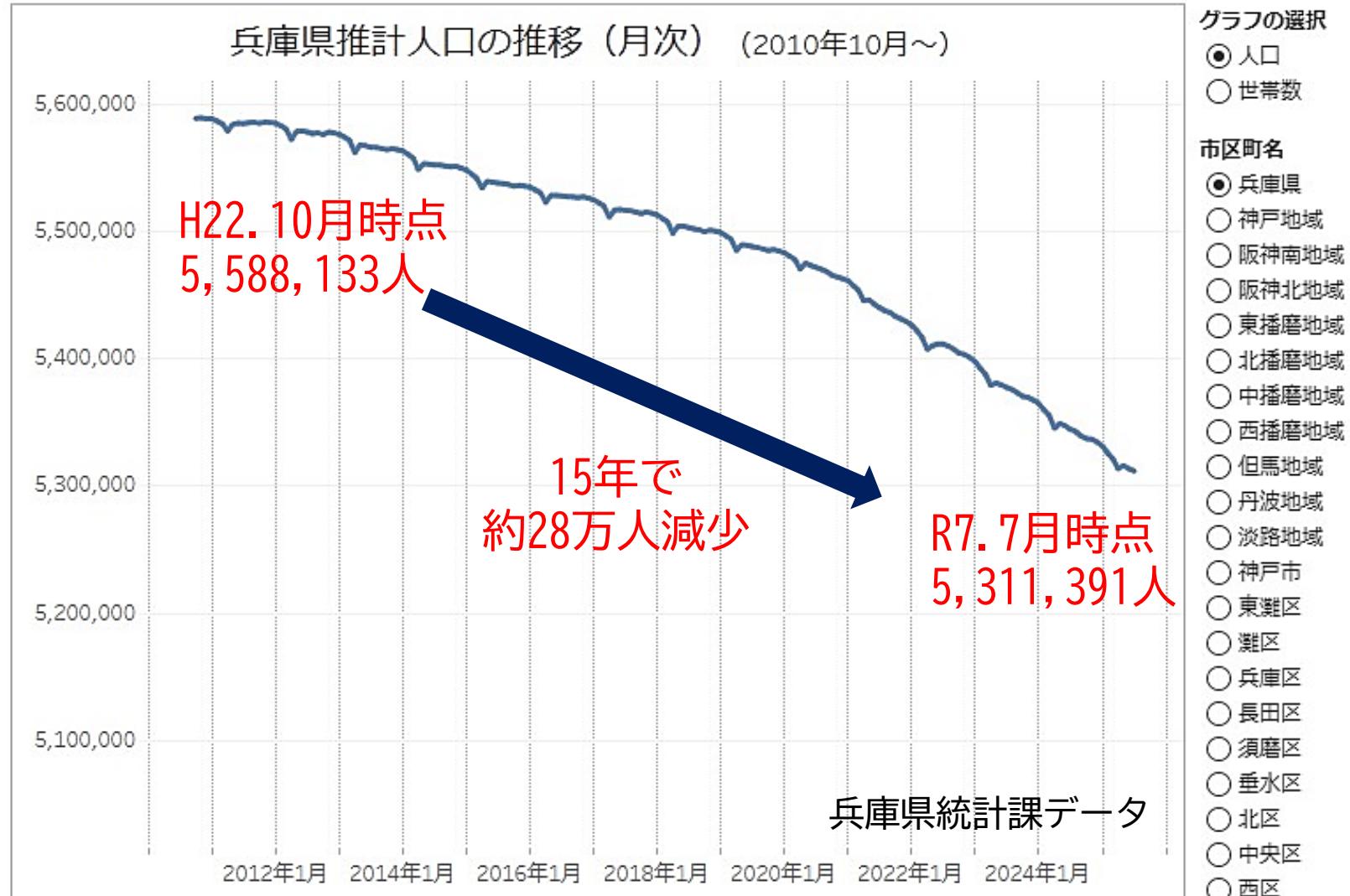
- 食糧不足
- 住居の不足
- 人の移動
- 資源の枯渇
- 経済格差の拡大
- エネルギーの枯渇
- 環境問題



- 効率的な収穫ができるよう品種改良
- アパート・マンションの建設
- 高速道路・新幹線の開発
- 省エネ対策
- 法整備・制度の設定
- SDGsの促進
- 環境に配慮した製品の開発

兵庫県の人口推移

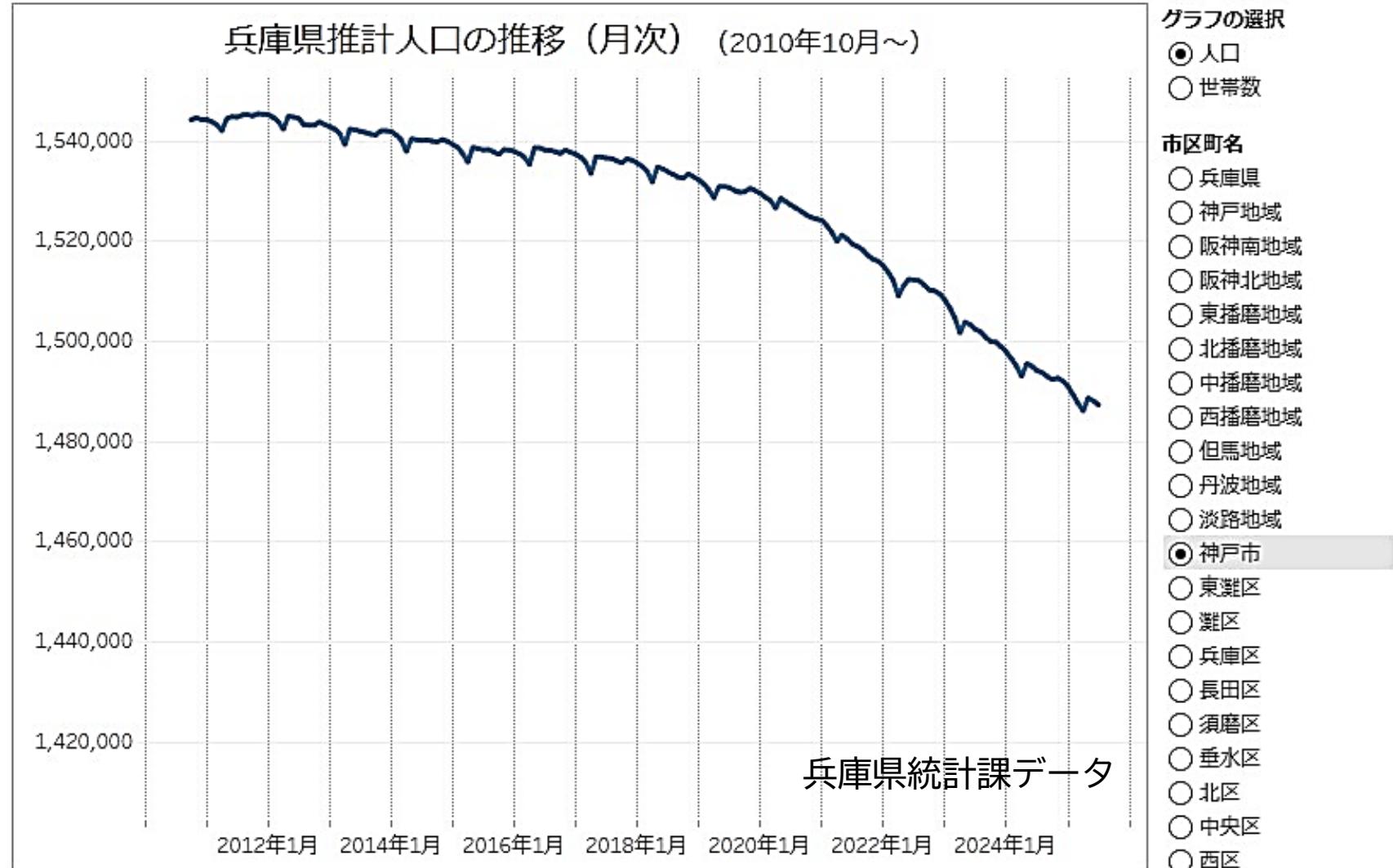
更新日：2025年7月30日



兵庫県全体としても人口減少が進行中

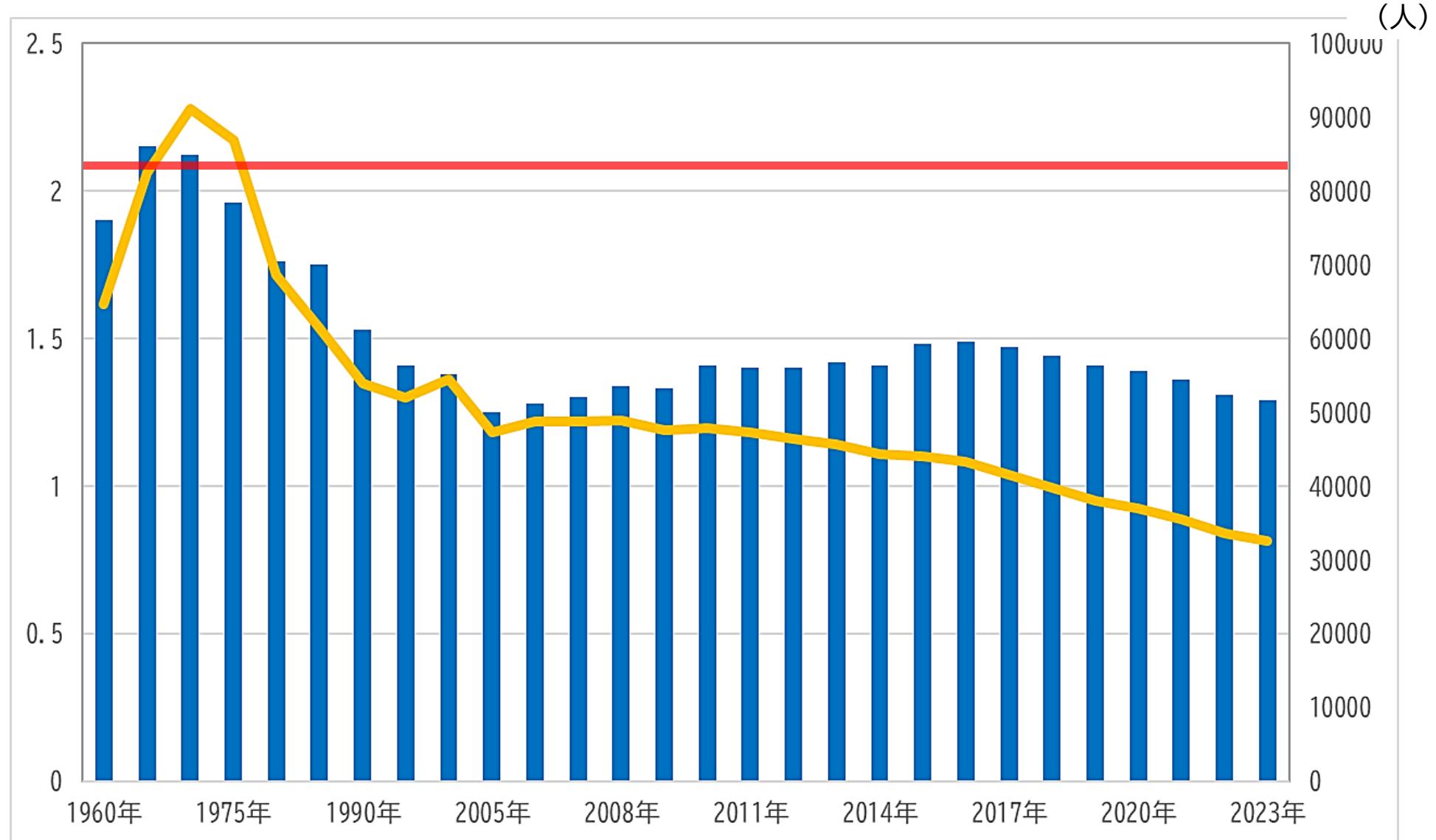
神戸市の人団推移

更新日：2025年7月30日



ちなみに、県庁所在地の神戸市も人口減少が進行中

兵庫県全体の出生数・合計特殊出生率



人口が維持される合計特殊出生率 (2.07) までですら回復は現状厳しい

これまでの自治体の取組みの結果

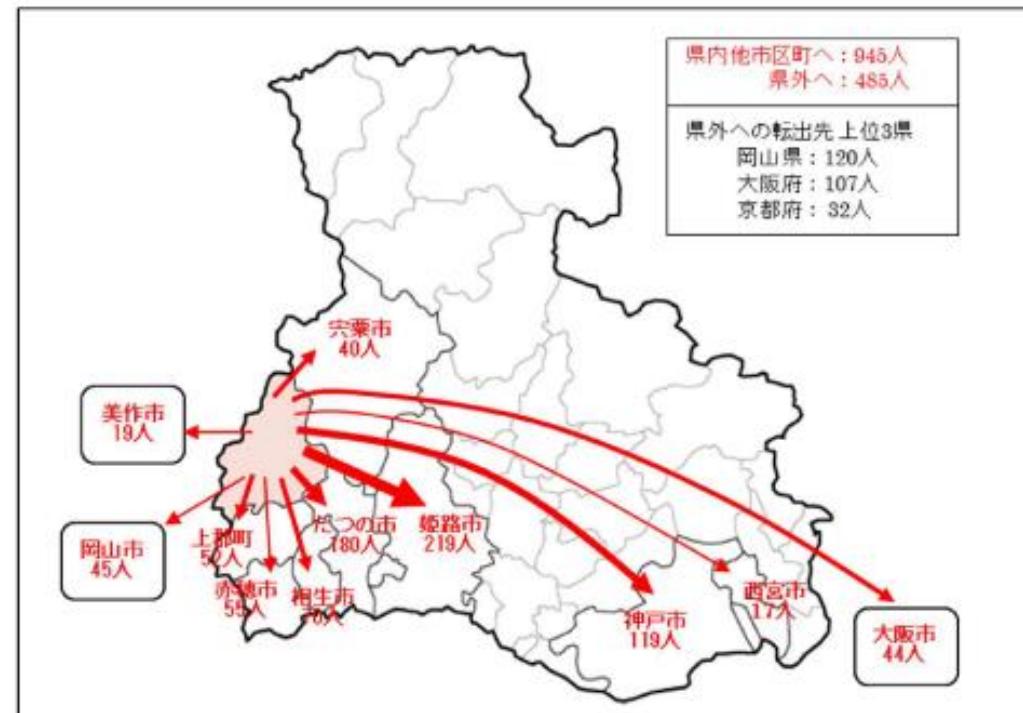
- ・魅力的なまちをPR⇒人口確保
- ・国内で人口を奪い合い
- ・便利で魅力的な都市部に人口移動

→地方部で顕著な人口減少

【転入先（平成 23 年～平成 27 年）】



【転出先（平成 23 年～平成 27 年）】



これからのまちづくり

人口減少時代の課題

○生活

- ・地域コミュニティ維持困難
- ・医療などサービスの低下
- ・買い物困難
- ・交流機会の減少
- ・鳥獣被害の増加

○地域

- ・人口流出の加速
- ・少子高齢化の加速
- ・空き家の増加
- ・耕作放棄地の増加
- ・景観の悪化

○経済

- ・労働力の不足
- ・消費の低迷（企業活動低下）
- ・企業の撤退・倒産の増加
- ・就労先の減少

○公共

- ・税収、財政の悪化
- ・職員数減少し、行政機能が弱体化
- ・災害対応に支障
- ・インフラ（水道、道路、橋）の更新が困難
- ・交通サービスの維持困難

○文化・伝統

- ・地域行事や伝統芸能の消滅

○社会保障

- ・年金・医療・介護の負担増加
- ・介護人材の不足

人口が減少する中で、課題を改善していく取り組みが必要

これからは人口減少社会に合わせた取り組みが大切

- 人口が減少することを前提とした
社会構造への**積極的な取り組みの転換**が必要

人口減少により佐用町の未来を諦めるわけではない！

少子化対策・子育て支援等の取組みは維持していく

※いかに人口減少を抑えるか、安心・安全で充実したまちを維持するか



そのために進めていくのが

佐用町：縮充のまちづくり

ちなみに、

佐用町以外で人口減少社会に合わせた取組みをしている自治体例

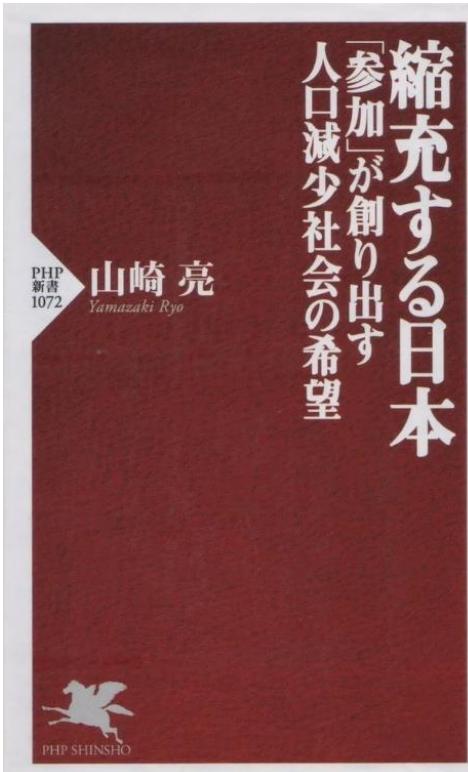
- 岡山県美咲町（賢く縮む：スマートシユリンク）

⇒公共施設を積極的に統廃合し、未来に費やす維持管理の負担を削減

縮充とは？

縮充の意味

縮充・・・人口が減少するなかでも、充実した生活を送る



やまさき りょう

コミュニティデザイナー 山崎 亮さんが提唱

「縮充」は造語、「縮絨（しゅくじゅう）」が由来

ウールをアルカリ性の液体の中で揉むと毛がからまって縮みながら肉厚でより暖かい生地になる。これからのまちづくりに大切なのはこの感覚

著書より一部抜粋

「縮絨」

「縮絨」は繊維の用語でウールなどの繊維に水や圧力を加えて生地を密にすること手法

縮充の取り組みに必要なこと

日本全体で人口が減っている、社会状況も変化してきている

人口増加時代と同じやり方、考え方では通用しなくなっている

今なら変化に対応できる余裕が少ないながらも何とかある

人口減少がより深刻化すると抜け出せない負のスパイラルに陥る

その前に、

人口減少時代に合わせた考え方や行動に変化させていく

例えば

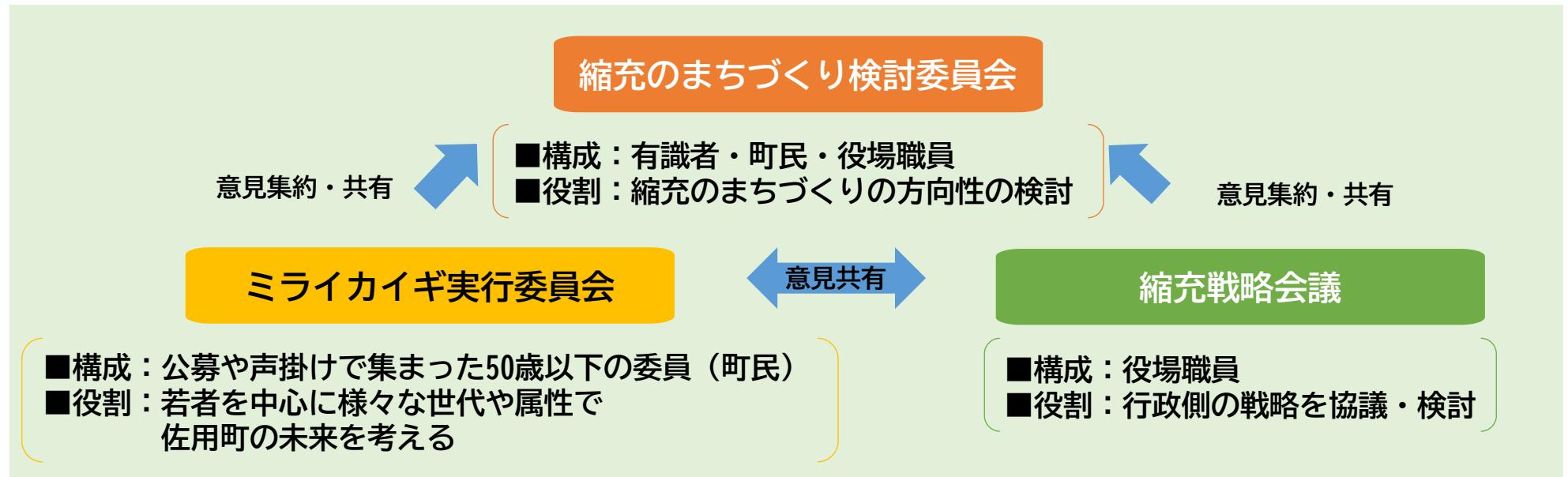
○人口が多いことで成り立っていた行事など⇒人口が減ると1人の負担が増加
あり方をみんなで検討し

積極的に「縮少（見直し）」

ただ、必要なことや大切にしたいことは「充実」

※縮は、残すか残さないかのゼロか100ではない！その間の40や60もある

縮充の方向性をみんなで考えてきました！



縮充で大切なことは何なのかを話し合ってきました



縮充のまちづくり検討委員会 ミライカイギ実行委員会

一部意見



- ・若者や女性が活躍しやすいまちに
- ・女性、若者、子どもの思いを大切に
- ・自分らしい生き方ができるまちに
- ・女性がもてなすが固定化されすぎていない？
- ・少ない意見が大事にされる
- ・子どもを中心に据えたまちづくりを考えたい
- ・新しい価値観を受け入れるまちに
など

縮充で大切にしたいポイント

話し合いに話し合いを重ねて出てきた5つのポイント

ボジティブなつながりを楽しむまち

楽しくつながる

- 誰もが気軽に参加できる話し合い
- 否定ではなくボジティブな気持ちで
- ここにいても良いと思える居場所
- 安心して暮らせるつながり

みんなで話せてほんまによかつた!



チャレンジを応援できるまち

やってみたいか叶う

- 誰もがチャレンジできる
- 子どものチャレンジをみんなで応援
- 失敗を許せる寛容さ
- いろいろな学びのチャンス

失敗したってええやん みんなで応援しよう!



一人ひとりが主役になれるまち

みんなが主人公

- 性別や属性によらない活躍の場や役割
- 一人ひとりの自分らしい生き方を尊重
- 女性や若者・子どもの想いを大切に
- 価値観や考え方の違いを尊重

だれもが主役 そんなまちって素敵やな



未来を考え 出来るところから始める

身の丈にあった見直し

- これまでの当たり前を見つめ直そう
- 小さな変化から暮らしを豊かに
- 未来を見据えて考えよう
- 行政サービスや施設も例外なく

これまでひとりはもう無理やで 身近なことから考えよう



我がまちを誇りに思う

さようが好き

- さようの良さを次世代につなぐ
- 正しく知って、まちへの愛着や誇りを
- 楽しい、おいしいといった経験を
- 守っていくための工夫が大切

ほんまにさようのこと 知つヒカ?



このポイントを今まで以上に大切にしたまちにしていきたい

めざす10年後の姿

2035年 縮充した佐用町の姿



めざす10年後の姿

2035年縮充した佐用町の姿



前向きな声が溢れるまちにしていきたい



これからめざす佐用町の姿

～これからの佐用町全体のめざす姿～

“小さくとも、少なくとも こころ豊かでしあわせ”

そんなまちに

そのためには、今まで以上に
みんな(住民・役場関係なく)でさまざまのことについて
話し合っていくことが大切

いきなりまち全体の大きなことを話し合って考えるのは難しい
まずは、自分の身の回りの小さなことから話し合うことが大切

令和7年第1回 三者連絡会ヒアリング結果まとめ

[人口について]

◆少子高齢化・人口減少

- ・高齢化による地域活動の困難化
- ・独居・高齢者世帯の増加
- ・子どもの減少、若年層の減少
- ・集落内人口の減少

◆担い手不足

- ・福祉委員・民生委員などの成り手不足
- ・若い世代の地域活動への関わりの低下
- ・ボランティア・リーダー人材の不足

◆地域コミュニティ・自治会

- ・近隣付き合いの希薄化、助け合い文化の減少
- ・集会所のバリアフリー化不足
- ・祭り・行事の存続危機
- ・役員や委員の成り手不足
- ・外国人との交流不足

◆世代間・価値観の違い

- ・世代ごとの考え方や価値観の差
- ・個人主義化による地域活動意欲の低下
- ・「お互いさま」意識の希薄化

[生活について]

◆交通手段の不足

- ・免許返納後の移動手段不足(買い物・通院など)
- ・コミュニティバスの本数やエリア不足
- ・公共交通の利便性の低さ
- ・買い物や病院までの距離と移動コストの負担

◆交流・居場所の不足

- ・気軽に集まれる場所や機会がない
- ・若い世代や子育て世代の参加が少ない
- ・独居高齢者の交流機会が限定期
- ・運営スタッフ不足

◆空き家・生活環境

- ・空き家・空き地の増加と管理困
- ・難耕作放棄地・田畠の管理不足
- ・ごみ収集や住宅立地による生活の不便さ

[支援について]

◆見守り・支援活動の課題

- ・不在や支援拒否世帯への対応
- ・個人情報の取り扱い
- ・参加を拒む人への関わり方
- ・家から出られない人への支援不足
- ・ケアマネ不在世帯への見守り体制不足

◆行政・社協の運営課題

- ・サービス継続や拠点維持
- ・財政難による事業縮小
- ・地域ごとの拠点設置・分散化の必要性
- ・移住促進と雇用創出の連動

○課題を挙げていったら、きりがない

○挙げれば挙げるほど、不安で気持ちが落ち込む

○解消できる特効薬もない

そこで、

一旦考え方を変えて話し合ってみましょう

グループでの話し合い

話し合う前にまず、

『これから佐用町での暮らしで

私が大切にしたいと思うこと』

複数あってもOK

例えば、

- ・おもいやり
- ・新しいことに挑戦
- ・先入観を捨てる
- ・世代を越えた人との交流 など

A4白色用紙

に書いてください。

グループでの話し合い

①グループをつくる

近いかた同士4～5人で椅子に座って向かい合う

②自己紹介

- ・なまえ
- ・担当地区名
- ・最近あった “ちょっと幸せ” と思ったこと

③見せ合い

グループ内で書いた内容を一斉に見せ合う

④説明

- ・なぜそう思ったのかを1人ずつグループ内で共有
- ・質問なども交えて話を深めるとGood

グループでの話し合い

みんなの話を聞いたあと、

- 印象に残ったこと
- 良いなと感じたこと

を A4 ピンク色用紙 に書いてください。



最後に回収します